

## ハロウィンパレードで 園児と村民が笑顔の交流



いいいてホームでは、お菓子のお礼に歌をプレゼントした子ども達。「また来てね」と約束の握手

10月29日、「まていの里のこども園」の園児達が、ハロウィンパレードを楽しみました。仮装をして園を出発した子ども達は、スポーツ公園を利用して老人会の皆さんに手を振りながらパレードをスタート。いいいてホーム、いちばん館、村役場とめぐり、「お菓子をくれないと、いたずらしちゃうぞ〜!」と大きな声でアピールし、そのかわいらしさにメロメロの大人達から、たくさんのお菓子を受け取っていました。みんなを笑顔にしてしまう、抜群にキュートなパレードでした。

## 大人気のハーバリウム製作で デザインする楽しさを満喫



インテリア雑貨として大人気のハーバリウム。つくる楽しさを満喫しました

10月17日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習事業「ハーバリウム教室」が開かれ、20人が参加しました。講師は、日本ハーバリウム協会の認定講師・宮谷理恵さんです。参加者は、好きな形の瓶とプリザーブドフラワーを選んで、制作をスタート。コツを教わりながらデザインを楽しみ、専用オイルを注ぎ入れて、作品を完成させました。選ぶ素材の組み合わせで、がらりと雰囲気の違う作品が誕生。「さらによい作品が作りたい」「また講座を開いてほしい」と意欲的な声が相次ぎました。

## ふるさと住民復興応援ツアー ようこそ！飯舘村へ



役場の前庭に、シャクナゲの植栽をしていただきました。大きく育ってきれいに咲きますように

11月2日から、村内で、1泊2日の「ふるさと住民復興応援ツアー」が開催されました。このツアーは、「ふるさと住民」の皆さんに村を訪れていただく機会として、村の移住相談室が企画したもの。そば打ち体験や学校の視察などを行いながら、参加者の皆さんに、村での交流を楽しんでいただきました。県外のイベントで「ふるさと住民」に登録し初めて村を訪れたという参加者もいて、村に想いを寄せてくださる方とのつながりを深める新たな機会となりました。

## 相双TSUNAGARU（つながる） ふるさと住民の皆さんと交流

ふるさと住民：村に興味・関心のある方に登録いただき「ふるさと住民票」のカードを発行しています



それぞれが感じる村の魅力なども話題に。村外の方の視点が、新たな気づきにつながります

10月18日、東京都新宿区で、相双地方の合同イベント「相双TSUNAGARU」が開かれました。このイベントの中で、村は、「ふるさと住民」となっている方との交流会を企画。村の移住相談室の職員らが、来場した6人の方と、対話を通じて交流しました。交流は、リラックスした雰囲気の中で行われ、「村民の皆さんとの、あるいは支援者同士の触れ合いを大事にしたい」「村の復興に関わりたい」といった村への想いや、未来志向の提案などに、じっくりと耳を傾けることができました。

## カボチャのランタンを作ろう！ 「いいいてハロウィンだよ全員集合」



中に電灯を灯せるおしゃれなランタンです。自作のランタンを手にイイタネちゃんとの記念撮影

11月3日、交流センター「ふれ愛館」で、「いいいてハロウィンだよ全員集合!」が開かれました。役場の若手職員らでつくる「賑わいづくり検討委員会」の企画です。家族や友人のグループが集まり、カボチャのランタンづくりに挑戦しました。参加者たちは、油性マジックを使って、オレンジ色のカボチャに思い思いの表情を描き、くり抜く作業に奮闘。子どもも大人も一生懸命、協力しながら大カボチャをきれいにくり抜き、全グループが素敵なランタンを完成させました。

## 「風船バス」引退セレモニー ありがとう！ドリーム号

菅野拓真さん（小学6年）「避難先でもこのバスで通学しました。いつも乗っていたバスに多くの人の思いがあったことを知りました。これからも、自分の夢（ドリーム）に向かってがんばっていきたい」



色とりどりの風船を手にした小学生に見守られて役目を終えたバス。総走行距離は約25万kmでした

10月27日、スクールバス「ドリーム号」の引退式が行われました。ドリーム号は、村が平成20年に、住民参加型ミニ公募債「まていな次世代育成村民債」を発行して購入したバスで、外装は当時の中学生がデザイン。中学校の部活動の遠征や校外活動で利用され、震災後は仮設校舎で学ぶ子ども達の登下校を支えました。式では、菅野村長が、資金を出し合った村民の思いなどを紹介し、代表児童が、運転手に感謝の花束を贈りました。※当時の村民債は現在の「いいいてっ子未来基金」に引き継がれています。